

地域の課題 研究者も考えます

11

土地利用



内山 愉太 特任講師

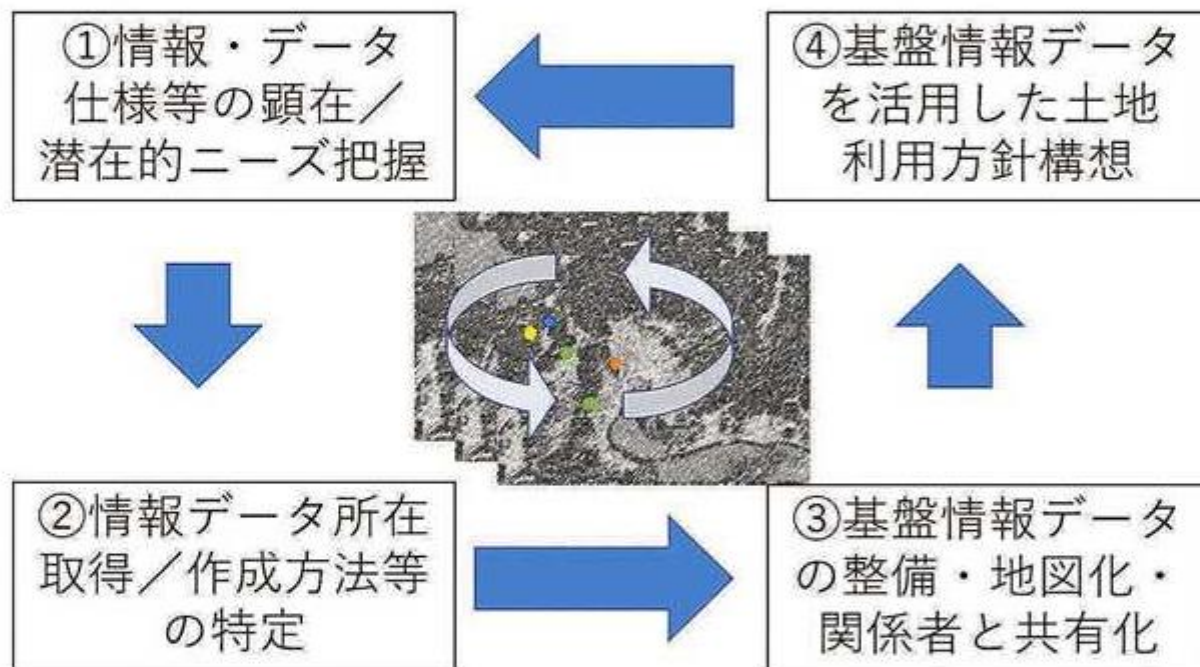
地図は有用なツール

携帯電話やカーナビなど、さまざまな場面で自分の現在地や周辺の地図を手軽に確認できるようになってきた。そのような地図が、どのように地域の課題解決に役立つのであろうか。ここでは、電子的な地図の利点として、多様な地図を容易に「重ね合わせて」「確認できる点」に着目したい。

電子的な地図は、紙の地図のように一枚一枚めくらなくても画面上で入れ替えや、地図を透過させて複数見比べることが可能だ。重ね合わせによって、地域の植物や河川、農地や商業地、詳細な地区ごとの人口分布、高齢化率等を統合的に理解することができ。その利点は、生物多様性が豊かなのに保全が進んでいないエリアを特定して対策を講じたり、災害リスクが高く

課題解決のための地図活用のイメージ

高齢化率も高い地域を把握し事前に非常時の対応を地域で共有したりすることが可能となる点にある。



多様な要素 配置の検討に力

松阪市飯高地域では観光マップが作製されており、波瀬地域では住民参加型で観光資源の地図化を紙媒体で実施するといった活用例もある。特に、地図上で多様な要素の理解を進めることは、農地・森林といった隣接しながらもこれまで個別に政策対象となることが多かった土地利用の統合的理解にも役に立つ。

例えば、野生鳥獣の管理、獣害への対策には、森林側の管理と農地側の対応の双方が重要であり、そのような生産・保全の整合性を図ることも地図を活用することができ

る。このように、農林業生産と環境保全といった、必ずしも両立しないようにもみえる要素の地図上での配置を検討することを通じて、地域の課題解決の手掛かりを探るために「地図」は有用なツールになる。本連載の研究実践プロジェクトにおいても、地域の課題の可視化と将来的な対応を構想する際に活用している。

名古屋大学持続的共発展教育研究センター